

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
省エネの推進	学校生活の中で省エネを推進する活動を実践する。	1	家庭科 「夏を涼しく爽やかに」という単元を通して、自然環境を生かして快適に過ごす方法を考え、実践する。	6年各担任	6年児童	1 6年 家庭科 「夏を涼しく爽やかに」という単元を通して、自然環境を生かして快適に過ごす方法を考え、次のような実践を行った。 ・リデュースやリユース、リサイクルを用いて、省エネや節電につながることを話し合い、エアコンや扇風機などを使わずに「涼しく感じる方法」を考えた。 ① 段ボールや紙を厚紙で団扇(うちわ)作り ② ペットボトルで風鈴作り ③ ホースに小さく細かい穴を開け、簡易ミスト作り 2 委員会活動 「エコ・リサイクル委員会」という名称の委員会を設けて、全児童へ、「資源を大切に使う気持ちをもとう」「節電・節水を推進する気持ちをもとう」と訴え、ポスターを掲示したり、ステッカーを作ったりして、啓発活動を行った。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 ・どの児童にも、その子なりの願いをもって、その子なりの技術と発想で、取り組むことができたから。 ・3R について調べ学習を行い、工作を通して、知識を活動させる学習活動が展開できたから。 ・児童に、エコ・リサイクルについての興味・関心を植え付け、その意義や大切さを学ばせることができたから。 【今後の課題】 ・この取り組みを、日常生活に活用させることが、最も重要なことである。その点から考えると、児童の作った作品を、日常生活の中でどう生かしていくかが、今後の課題と言える。 【次年度への引継ぎ事項】 ・今回の取り組みを次年度担当する職員へ引き継ぎ、さらに洗練された単元づくりや授業づくりへ繋げていくこと。
		2	委員会活動 節電・節水・リユースなどについて学び、全校児童へその大切さを呼び掛け、実質的な活動を実践する。	エコ・リサイクル委員会 担当教員	エコ・リサイクル委員会に所属する児童		
資源の再利用や廃棄物の削減への取り組み	ゴミの分別の必要性やその方法、茅ヶ崎市におけるゴミ処理の仕方などを、施設見学やそこで働く方々の話を伺い、自分なりの考えをまとめる。	1	社会 ゴミ処理やリサイクルの仕方を施設見学や調べ学習から学び、ゴミ減量化の意識を高める。	4年各担任	4年児童	・茅ヶ崎市の環境事業センターを見学し、職員の方々より、説明を受けた。そこで教わった「ゴミは資源の源」という言葉を合言葉に、各家庭でのゴミの分別やゴミ減量化の推進へ、活動を広げられた。 ・会議等での「ペーパーレス化」を推進し、今年度からは、学級だよりや学年だよりなど、学校から各家庭へ紙に印刷して届けていた情報を、児童用のタブレット端末を用いて、配信することにした。 ・委員会活動でも、ICTを積極的に取り入れ、全校に向けて行ってきていたアンケートや総選挙などを、児童用のタブレット端末を用いて実施し、「ペーパーレス化」を推進した。	【取組の評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 ・各家庭で、児童の声をきっかけに、ゴミの分別やゴミ減量化が進み、各家庭でのゴミ減量化に対する意識が高まったから。 ・ペーパーレス化の取り組みを確実に進めることができたから。 【今後の課題】 ・児童の声をきっかけに、教職員や各家庭で、ゴミへの意識や関心を高められた。今後は、もっと効率よく、より効果的に広める手立てを模索していきたい。 【次年度への引継ぎ事項】 ・「ゴミは資源の源」という言葉を今後も使い、学習活動へ発展させていくこと。 ・「ペーパーレス化」を、さらに推進させること。
		2	日常の学校生活や清掃活動を通して、裏紙の利用や雑巾洗いなどから、ゴミ減量化や節約の大切さを学ぶ。	仲よし級教職員	仲よし級児童		
		3	会議等で、積極的な裏紙の再利用やタブレットを用いたペーパーレス化に励み、資源の有効利用に各自努める。	教職員	教職員		
		4	委員会活動や清掃時間でのゴミの分別の徹底と資源回収を呼び掛け、自発的で実質的な活動を推進する。	エコ・リサイクル委員会	エコ・リサイクル委員会		

(様式1) 学校エコ活動シート

生き物や緑を育成する心の育成	動植物の育成を通して、児童に「自然を大切に育てる」を育てる。	1	生活科や理科 草花の栽培を通して、植物の存在の大切さを学び、自然を大切に育てる。	1~5年各担任 仲よし級各担任	1~5年児童 仲よし級児童	<p>・アサガオ、ヒマワリ、チューリップ、ヒヤシンス、ミニトマト、ナス、ピーマン、ツルレイシ、サツマイモなどの植物を学年ごとに育て、植物の生長や植物を慈しむ気持ちの大切さを学んだ。</p> <p>・3年生は蚕を、5年生はメダカを育てることを体験した。そこでは、蚕やメダカを大切にすることでなく、桑の木や水草を大切にすることを学んだり、生糸(絹)ができる工程や産卵、稚魚の成長の過程を知ったりして、命の大切さや命を慈しむ心を育てることができた。</p> <p>・命が命を繋げ、私たち人間の営みが成り立っていることなどを学んだ。</p>	<p>【取組の評価】<input type="checkbox"/>達成できた <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成した <input type="checkbox"/>達成できなかった</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の育てた植物は、どれもほぼ順調に成長し、花を咲かせ、実をつけることができ、世話をし育て上げる一連の体験を通して、動植物の成長やそれを慈しむ気持ちの大切さを学ぶことができたから。 ・蚕やメダカを育てることを通して、命の大切さや命を慈しむ心を育てること、命が命を繋げ、私たち人間の営みが成り立っていることなどを学ぶことができたから。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酷暑と表現されるような、最近の異常に暑い夏を凌げる動植物の選定が必要なこと。 <p>【次年度への引継ぎ事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を扱う以上、死なせないような正しい世話の仕方やコツを、次に担当する職員へ確実に引き継いでいくこと。
		2	理科 蚕の飼育と観察を通して、生き物の世話の仕方や自然を大切に育てる。	3年生各担任	3年生児童		
		3	理科 メダカの飼育を通して、生き物の世話の仕方や命の大切さを学ぶ。	5年生理科専科	5年生児童		
生き物や緑を育成する心の育成	動植物の育成を通して、児童に「自然を大切に育てる」を育てる。	1	理科 「植物の生長と水の関わり」や「生物と環境」を通して、植物の存在の大切さや環境保全の意味を学ぶ。	6年生理科専科	6年生児童	<p>・本校には、丸池がある。その丸池は、綺麗で美しく児童の人気スポットである。その丸池をどう管理していくかを6年生の1学級が総合の授業で扱い、池の水を抜き、磨き上げ、綺麗にした。だが、生き物を主人公に置いた環境として考えると、綺麗に磨き上げることは、マイナスであることを、有識者の講演で児童は学んだ。今後は、状態を見ながら、適宜、清掃すると決定をした。児童は、「誰のための環境なのか」という視点をもつことを学び、そこから、さらに学びを深めることができた。</p>	<p>【取組の評価】<input type="checkbox"/>達成できた <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成した <input type="checkbox"/>達成できなかった</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸池の環境を調べ、何が、どれだけ、どこに、いつ、居るかを観察し、自然観察の方法やデータとして残す作業を、児童が体験できたから。 ・丸池が、校内の人気スポットであることから、綺麗に磨き上げたのだが、生物の生きる環境として丸池を考えると、綺麗にし過ぎることは、生き物にとって決して良い環境になるのではないことを学び、児童は葛藤を覚え、より深く考えることができたから。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、ある1学級が、授業で扱ったが、それをどう広げ、どう継承していくか。 <p>【次年度への引継ぎ事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学習のまとめを全校へ発表するなどの手立てが必要。 ・丸池の管理者を決め、全校での取り組みへと発展させていくこと。
		2	委員会活動 総合 丸池の掃除と世話を通して、命の大切さや環境保全の意味を学ぶ。	飼育・栽培 委員会担当 6年1組担任	飼育・栽培 委員会児童 6年1組児童		

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



「蚕の飼育と観察」(3年)

小さな、小さな蚕の卵から蚕が生まれ、桑の葉を食べて、日に日に大きくなっていく様子に、児童は驚いていた。

「蚕は、桑の葉しか食べないことを、児童が知識として獲得すること、実はそのことが、とても重要なことだと、児童の学びから分かった。」

と、ある教員が熱く話していた。

その教員は、蚕を児童が可愛いと感じ、自分の手で世話することで、大きく成長していくことで、達成感を抱く、素直で純粹無垢な児童の心に、まず、感動したと話した。

そして、それだけではなく、児童が、

「蚕に、もっといい桑の葉を食べさせてやりたい。」

「美味しい桑の葉を食べさせ、蚕をどんどん大きくさせて立派な蚕に育て上げたい。」

そういう声を発したことに感動したと話した。

そしてさらに、ある日、桑の木の根元に、自宅から持ってきた液体肥料を、そっと与えていた児童がいたこと。その光景を見て、大好きになった蚕が食べる桑の葉も、大切に思う児童の気持ちと、その気持ちを実行に移す行動力に、大いに感動したと話していた。

命を大切にする心は、生命の不思議に驚くところから生まれ、他の命をも育み、大切にすることを育てることが分かった。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

吉野 利彦

【今後の方向性について】

省エネルギーの推進や廃棄物削減等の取り組みや自然や命を大切にする取り組みについては、特別な学習や活動を行うのではなく、「日常生活を見直す・問い直す」という視点が非常に大切であると考えている。

学習活動や児童の委員会活動等では、教職員が児童に問いかけ、もの・命を大切にする心を育むよう指導してきた。

今後も、こうした当たり前のことにしっかり取り組む、当たり前のことを問い直す学習や活動を進めていきたい。